

臨床研修修了にあたって

No doubt

研修医 岩田晃子リネー



振り返ると歯学部ニューズには縁があると思えないくらいに学生時代から今まで幾度か原稿を書かせていただきました。この度も臨床研修について1/24の確率で原稿を書かせていただくことになったことを光栄に思っております。

「死んだら絶対に助けてあげるから」これが物心がついたときに母に言った言葉です。私は小さいころから医療人になることが夢でした。小学校、中学、高校にあがっても、自分は必ず医療という形で人の役に立ちたいと思う気持ちは不変でした。その土台の上のはじめの一枚を私はこの一年間の臨床研修でつんだのだと思います。

総診ライフは、まとめるのならば毎日が喜怒哀楽、山と谷の連続で、本当にこの8ヶ月が飛びように過ぎていったとしかいえません。実際に自分が毎日感じている感情は日々の診療や技工などの忙しさに置き換えられてしまい、このような機会がなければ振り返って噛み締めることができなかつたと思います。

私は総合診療部での臨床研修を1年間行うプログラムでした。単独型の研修といっても、総診では診療以外に係りの仕事、そして摂食嚥下リハ、顎関節治療部、口腔外科のローテーションがあるのでかなり盛りだくさんです。このローテーションは、2～3週間総診を留守にすることになるので、それを前提に前もって治療計画を立て、それに沿って治療をしていく必要がありました。出向く先の科で学ぶことはもちろんのこと、それ以外にも患者様のスケジュール、口腔内状態、自分のスケジュールをいかに両者が満足するようにやり

くりするかでローテーション前後は患者様が嵐のように入り、大変でした。でも所詮私の大変さは研修医レベルの大変さです。というのも、私は自分の受け持っている患者様を全力投球で診れば済みますが、ライターの方々はそう簡単にはいきません。毎日自分が担当医でない患者様までも、的確に治療のアドバイスを私たちにしなければいけません。先生方には的確な「診断力」、どの治療がベストかすぐに見分ける「判断力」、そして治療をする「実行力」この3つが備わっています。さらに言うならばそしてそれを研修医である私たちに『やってみろ』とGOサインを出してくださる「責任と決断力」があります。先生は何人の情報を並列して考えられるんだろう？ いくつのことを同時に考えてこなせるんだろう？ 自分にも10年後くらいには先生達と同じことができるのかな？ それにはどうしたらいいんだろう？ と考えたときに自分には「診断力」「判断力」「実行力」の3つが今後技術力と共に学んでいかなければならないと、ひとつの明確な大きなゴールを見つけることができました。

4月から始まった臨床研修は今後の長い歯科医師人生のほんの一步に過ぎない一年だったかもしれません。でもこの一年は漠然とした将来像が少し形になった一年だったと思います。

私は医療人として人の役に立ちたいと思うだけでなく、実際に思いを実現出来る立場に立っています。今の私は、夢を現実化できたことを嬉しく思い、「歯科医師になったんだ」と責任の重さを感じ、同時に自分の未熟さも痛感させられています。私の出発点である、人を



助けたいという思いを原点とし、今後もたくさんの人と関わり、今の目標で満足せず、自分のゴールを日々更新し続けたいと思います。

総診でいつも一番近くで一緒に診療をしていた私のペア、そしていい日も悪い日も、変わらずに色々な形で支えてくれた同期の研修医の皆様、私はこの一年間一緒にたくさん悩み、笑い、相談し、いい時間を共有できたことラッキーに思います。

Happiness keeps you sweet
Trials keep you strong
Sorrows keep you human
And life keeps you humble.

臨床研修医修了にあたって

研修医 栗野 祐司

この度臨床研修医修了にあたり、原稿を書かせていただくことになりました栗野と申します。何か文章を書くという作業も久しぶりでしたのでどのようなことを書いてよいか戸惑いましたが、このような機会をいただきこれまでの研修を文章として振り返ることができたことは私にとって意味深いものとなりました。

私は前半の半年が開業医、その後の半年が大学での研修というコースでしたので、5月から横浜の開業医で研修することになっていました。慣れない都会で一人暮らしかと思いきや、同じ研修先を選んだ同期の研修医とルームシェアという状況で研修が始まりました。右も左も分からない状態でしたが、先生やスタッフのスピードの早さに非常に驚いたのをよく覚えています。アシストをするにしても全くついていけず、治療が滞ってしまうことが多く不甲斐なさを感じる毎日でした。ただ、家に帰れば状況を同じくする同期が居り相談できたということは、別の開業医で1人頑張っていた他の研修医と比べると恵まれた環境だったのかもしれない。

開業医での研修にも慣れ始め少し余裕ができたとき最初に見えてきたのは、先生方の治療に対

する姿勢でした。私の目からはいい加減な治療をしている姿はなく、先生やスタッフがより良い治療を提供しようと努力していることがよく伝わってきました。そのとき私は最初の研修場所がここでよかったと本当に実感しました。また、週に何度かある勉強会やその他講演会などにも参加させていただいたことも、今思うと非常に恵まれた環境だったと感じています。もちろん手技的なことも色々教えていただきましたが、これから歯科医師として働く上で大切なことを学べたと思います。

10月から大学に戻り、冠ブリッジ診療室での研修が始まりました。今考えると大学での研修はほぼ技工一色ではなかったかと思います。技工は元々嫌いではなかったのが最初は丁寧に楽しんでやっていました。しかし技工物が多くなるにつれて楽しむどころではなくなり、ただこなすだけになっていました。後から考えれば、その結果粗くいい加減な技工物を作っていたのではなかったかと反省しています。指導医の先生が私の作った技工物のおかげで治療にはまったりすることもあり、色々ご迷惑をお掛けしたと思います。よく指導医の先生に言われたことは、「不器用でも丁寧に作れ」、「要点を押さえた技工物を作れ」ということでした。技工物も単に作ればいいものではなく、その先の最終補綴を意識しなければ全く意味のないものになってしまうということを痛感しました。自分自身でも嫌になるほど飲み込みが悪い私に、それでも熱心に教えてくださった指導医の先生には本当に感謝しております。

歯科医師となって1年目。良くも悪くも周囲から影響を受けやすい時期ではないかと思います。そんな時期に自分が共感できるような信念や理想を持ち患者様と接している先生方と出会えたことを幸運に思います。研修医の1年間はこの先歯科医師として生きていく中で重要な位置を占めるものだと確信しています。

最後に、この1年間先生方をはじめ多くの方々に支えられ非常に充実した研修を送ることができました。本当にありがとうございました。